

# 大会規程

## 第1条（試合時間）

- 1 1時間20分を過ぎて新しい回へ入らない。（決勝戦には適用しない）  
また、勝っている後攻チームが攻撃中に1時間20分を過ぎた場合はその時点で試合を打ち切る。
- 2 同点の場合はプレーオフ方式により実施することを原則とする。  
但し、試合進行上の都合でプレーオフは行わず抽選を行うこともある。

### [実施要領]

- (1) 最終回のメンバーで実施し選手の交替は認めない。ただし、守備位置の変更は認める。
- (2) 先攻側より1番打者を3塁、2番打者を2塁、即ち1死2・3塁の状態で行う。  
なお、同点の場合は継続打順にて繰り返す。  
（継続打順：たとえば前回は6番打者で終了していれば、5番打者が3塁走者、6番打者が2塁走者、打者は7番打者からとなる。）

## 第2条（コールドゲーム）

- 1 3回以降10点、5回以降7点の得点差が生じた場合。ただし、原則として決勝戦はこのルールを適用しない。
- 2 降雨・日没などで試合の続行が不可能な場合は4回終了時点で成立とする。  
なお、4回表終了時点で後攻側がリードしている場合は成立とする。

## 第3条（集合時間及び棄権試合）

集合は試合開始時間の40分前までとし、試合開始時間までに準備が整わない場合は棄権としてみなす。

試合開始時間は双方の同意を得て早めることができる。

## 第4条（特別ルール）

正規の球場以外の場合、審判又は相当役員の判断でホームランゾーン、ツーベースゾーンなどの他にアウトラインを設けることができる。

アウトラインは、たとえば内野手の1塁送球がそれて危険な場所に入った場合などを考慮して設けるが、その場合の走者の進塁について次のように定める。

(例) ① 内野ゴロが1塁へ悪送球となり、アウトラインに入った。

⇒打者走者は2塁まで進塁。

② 走者2・3塁で上記悪送球の場合

⇒2・3塁走者は本塁へ、打者走者は2塁へ。

③ 走者満塁で上記悪送球の場合

⇒2・3塁走者は本塁へ、1塁走者は3塁へ、打者走者は2塁へ。

(注) 即ち、野手の悪送球がアウトラインを超えた場合は、正規の球場で送球がベンチに入ったと同様に扱い走者（打者走者を含む。）には2個の塁が与えられます。

また、投手の牽制がアウトラインを超えた場合、プレートをはずしての送球であれば2個、プレートをはずさない送球の場合は1個の進塁が許される。

#### 第5条（使用球）

使用球は各チーム2個ずつ提出する。

使用球の種類（メーカー）は大会ごとに連盟より提示をする。

#### 第6条（スパイク・ヘルメットの使用）

金具付スパイクは禁止する。また、打者及び走者はヘルメットを着用。

捕手はマスク・プロテクター・レガース・キャッチャーズヘルメットを着用しなければならない。

#### 第7条（シートノック）

各チーム5分以内とし、後攻チームより開始する。ただし、シートノックなしで試合を開始することもある。

#### 第8条（投手練習）

1 1回及び交替のときは7球、その他は3球とする。

2 投球練習の際、控えの選手が捕球する場合は危険防止のためマスクを着用すること。

#### 第9条（グラウンド整備）

試合終了後、勝者チームは速やかにグラウンドの整備を行うこと。

#### 第10条（天候等の問い合わせ）

雨などにより試合が危ぶまれる場合、午前の試合は午前7時、午後の試合は午前11時まで決定するので担当ブロック長に問い合わせること。

#### 第11条（試合日程及び時間）

1 学校行事等で対戦不可能な場合、前週日曜日までにブロック長に申し出る事。

（大会期間中は、5回程度までを限度とし調整に努める。）

2 試合日程及び時間は組合せ発表後の変更はできないものとする。

3 祝祭日の場合は、前々週日曜日まで（7日以上前となる日曜日）とする。

#### 第12条（チーム構成）

女子選手は1学年下位のチームに登録することができる。

ただし小学生に限る。

#### 第13条（その他）

当規程の定めなき事項については、（財）全日本軟式野球連盟の発行する「競技者必携」に準ずる。

2010年1月改訂